

白子駅前商店街活性化活動

～～商店街 x 高専生＝すずかテラス～～

久保春菜(5C)、富田昌吾(5E)、棚橋友也(4I)、更屋秀人(3E)、上岡史人(3C)、西村大樹(2S)、政木 確(2S)、森陽一郎(2S)、中村晃史(2I)、小川 凌(2E)、柴田拓真(1M)、青木幹太(1S)、伊藤実津穂(1C)

鈴鹿工業高等専門学校 学生会

概要

昨年度の三重県戦略企画部の事業に参加させていただいた四日市駅前の商店街での活動での経験を活かし、本年度は、白子駅前商店街活性化活動の取り組みを行った。商店街の現状や商店街に足りないものなどを学生が目線で意見を出し合い、商店街発展のための話し合いを重ねた。12月より、白子駅前センター商店街のイベントショップにて「すずかテラス」を発足し、ブロックロボット教室、高専生に聞いてみよう、白子駅前商店街探検隊、餅つき大会、工作教室などのイベントを行った。何も知らなかった私たちだったが、商店街についての知識を得ることができた。

1. はじめに

近年、大型ショッピングモールが増え始め、駅前商店街の需要は激減している。人々はショッピングモール1つですべての買い物、食事を済ますようになった。多くの店はシャッターが閉まり、商店街は「シャッター通り」と呼ばれるようになった。昨年度は、三重県戦略企画部の事業に参加させていただいた。しかし、昨年度の事業は日程等の関係から、行動に移せず終わってしまうことが多かった。

今年度に入り6月、事業でお世話になった三重県商店街振興組合より、「白子商店街の空き店舗を使用し、商店街の活性化につなげてほしい。」との依頼があった。将来幅広い年齢層の方が足を運んでくれ活気あふれる商店街にすることを目的とし、商店街の現状や商店街に足りないものなどを学生が目線で意見を出し合い、商店街発展のための話し合いを重ねた。

今回、三重県商店街振興組合連合会の他、三重県雇用経済部サービス産業振興課、さらに、地域産業・自治体と連携し、地域の未来を担う科学者・技術者（未来産業人材）の育成を目指す「みえサイエンスネットワーク」（運営機関：鈴鹿高専）にバックアップしていただいた。



図1 はじめての打ち合わせ



図2 駅前商店街の方々との打ち合わせ

2. すずかテラスとは

地域の方々と語ることでできること、地域のことをもっと知ることのできる場所、地域の凄いいことを発見できる場所、普段学校の中になかったことを、駅前という場所に求めたいという鈴鹿高専学生会の想いと、白子駅前センター商店街で、何かを継続的にやってほしいという商店街の想い、子供から大人まで科学に興味をもってもらい未来産業人材を育てたいという「みえサイエンスネットワーク」の想いなどのベクトルが合って、商店街 x 高専生=すずかテラス、この「すずかテラス」の誕生となった。ここには”鈴鹿を照らす”の意味を込めて、学生と地域との連携した取り組みが始まった。

3. 活動紹介

(1) 12月イベント

去る2013年12月12日(木)～14日(土)、商店街の空き店舗を使用し、第1回『すずかテラス』を開催した。最初の2日間は17時～19時という時間帯で行った。1日目は小学生を対象とし、アーテックブロックロボというまだあまり知られていないブロックに触れてもらった。このアーテックブロックは、どこの面からでも組み立てられることが特徴である。低学年の子には学生が付き添い丁寧に教え、時にはかわりに作業をしてあげていた。高学年の子は友達同士お互いに間違っているところを指摘し確認しあいながら一緒に作っていた。どの小学生も時間を忘れ、黙々と作り完成させていた。その後自分たちで自由に作り実際に走らせ競争させ、大盛り上がりとなった。



図3 ロボット教室の様子



図4 ロボット教室の様子



図5 ロボット教室表彰式



図6 ロボット教室記念写真

2日目は中学生を対象に、高専生に聞いてみよう！を行った。高専こと、クラブ活動、寮生活など、高専生に聞いてみたいことなど、中学生に学校の帰り気軽に寄ってもらえるような場を設けた。中学生の思いを学生が直接聞き、分かりやすく教えていた。親と一緒に来てくれた子や、仲の良い子4人で一緒に来てくれた子たちもいた。詳しく分かりやすく伝え、受験生には少しでも不安材料を取り除けたように思えた。また商店街の和菓子屋より、かりんとう饅頭を差し入れしていただいた。来てくれた子に配り一緒に食べつつ話をした。商店街のアピールも少しできたように感じた。



図7 高専生に聞いてみようの様子_1



図8 高専生に聞いてみようの様子_2

最終日は10時～14時という昼食をまたぐ時間に行った。「商店街ツアー」と称し、みんなで商店街を一周探検した。開いている店は直接进入り、店の方の話を聞いた。売っているものを聞いたり、気づいたことを質問した。店の方は親切に教えてくれ分かりやすかった。ツアーから帰ると、お昼をはさみマップ作りを行った。午前中に聞いてきたことを紙に書いて商店街の地図に貼り付けオリジナルの商店街マップを完成させた。



図9 商店街探検隊_1



図10 商店街探検隊_2



図11 商店街探検隊(マップ作り)



図12 商店街探検隊(発表会)

(2) 1月イベント

年が明け、1月も同様にイベントを行った。1月16日は、「ブロックロボットを作ろう」と題して、小中学生を対象にアテックブロックを使ったロボット教室を行った。今回のテーマは、「ゴールを狙え!」。歩行ロボットを学んだ後、キーパーロボットを相手に、ゴールを狙うシュートロボットを作った。創意工夫されたロボットがゴールを決めると会場が湧いた。



図13 ブロックロボット教室_1



図14 ブロックロボット教室_2

1月17日は、「御餅つき&パッタイ満月 Night」と題して、高専生・大学生を対象に、餅つき大会を行った。会場は、鈴鹿高専、三重大学、鈴鹿医療大学、地域の方々など多くの参加者で溢れ、餅つきの熱気と美味しいお餅をみんなで味わった。また、商店街のお客やタクシーの運転手の方々には温かいお汁粉が人気を呼んだ。



図15 餅つき大会



図16 餅つき大会



図17 大学生達との交流

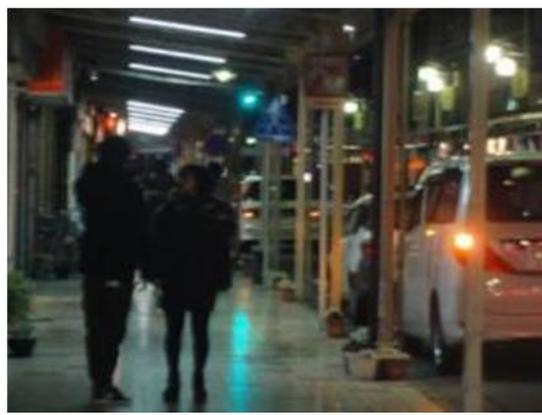


図18 商店街でお汁粉が人気

1月18日は、「工作教室&餅つき」と題して、小中学生を対象に工作教室と餅つき大会を開催した。会場には、鈴鹿市を始め、亀山市など近隣の市町から小学生が集まり、磁石と電池でモーター作りやプラバンでアクセサリ作りを行った後、餅つき大会が行われた。

参加した小学生は「モーターを作ったり、アクセサリを作ったり、ロボットを動かしたり、御餅を作って食べたり、本当に楽しかったです。もっともっとブロックロボットでいろいろなことがしたいので、また、やってください、参加します。」と語った。



図 19 工作教室（モーターを作ろう）



図 20 工作教室(プラバンでキーホルダー)



図 21 子供達と餅つき大会



図 22 子供達と餅つき大会

4. 感想と今後の展望

2回のイベントが終わり、少しではあるが人が集まりやすい時間帯や年齢層、男女比などの統計がとれた。また興味を持つ企画はどのようなものなのかも分かり始めた。まだ商店街を巻き込むような規模ではできておらず、商店街発展のためになっているか悩むときもある。しかし、今は地道に小さな活動をつづけ、近くの方に知ってもらう段階であると考えている。だんだんと広まってより多くの方に足を運んでもらうことを目標として頑張っていきたいと思う。

最初は本当にすべて手探りで、第2回が終わりやっとイベント企画の進め方などが分かり始めてきた。いつも会議では適切な意見を述べ、イベントを気に掛け見守りサポートして下さる三重県商店街振興組合連合会をはじめ三重県雇用経済部サービス産業振興課、「みえサイエンスネットワーク」の方に感謝したい。